

東日本大震災から10年の思い

レクイエム・プロジェクト仙台2021

また逢える ～いのちの日々かさねて～

ローカルジャーナリスト・寺島英弥氏が書き下ろした4篇の詩による
混声合唱組曲が仙台から生まれる！待望の完成初演！



飯館村の冬景色



* レクイエム・プロジェクト仙台2021の活動は、「令和3年度宮城県NPO等による心の復興支援事業」補助金交付事業として実施しています。

主 催：レクイエム・プロジェクト実行委員会、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会

特別協賛：(株)ケー・エフ・シー

協 力：和田 忠<グラフィックデザイン>

小田島 智<小田島ピアノ調律所>

(株)エムプロジェクト<ライブ配信、収録>

2021年

9 / 11 SAT

午後2時30分開演
(午後1時30分 開場)

会 場：多賀城市文化センター（大ホール）
多賀城市中央二丁目27番1号 TEL.022-368-0131（代）

第1部

① 久慈市在住の詩人・宇部京子氏の作詩による作品から 指揮:工藤欣三郎 ピアノ:菅原紀子

1. 風のよう

すごくすごく
くじけそうで
こわれてしまいそう

こおりついだ白い夜
見上げる星屑

そうあの日は
あんなにふざけあってはいたのに

とてもとても
つらくて
涙もでてこない

月も星も雲にかくれ
見上げる闇の夜

そうあの日の
あなたのやさしさがくやまれて

けれど
明日また日はのぼる
オレンジ色の朝日があざやかに
だからつよくつよく
風のようやさしく
あなたはわたしの中で生きてゆく

4. うさんのか

さみしいとき
うれしいとき

まよったとき
つかれたとき
とうさんの海に
会いいいく
とうさんとおなじ歩幅で
すなはまをあるく
とうさんとおなじ手つきで
はまなすをたおる

とうさんの海はわたしのふるさと
ザッポーンザッポーン
ザッラーンザッラーン

② レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～<全音楽譜出版社刊>より抜粋 指揮:上田益 ピアノ:菅原紀子

歌詞対訳

1. Requiem aeternam
(レクイエム・エテルナム)

↓永遠の安息を彼らにお与え下さい。
主よ。絶えざる光が彼らを照らしますように。
神よ、シオンでは賛歌があなたにふさわしく、
エルサレムではあなたへの誓いが果たされます。

私の祈りを聞いて下さい。
肉なるものはみなあなたのものに来ます。
絶えざる光が彼らを照らしますように。
永遠の安息を彼らにお与え下さい、主よ。

2. Kyrie
(キリエ)

↓主よ、憐れみたまえ
キリストよ憐れみたまえ
主よ、憐れみたまえ

5. Lacrimosa
(ラクリモーザ～涙の日～)

↓涙の日その日は
罪ある者が裁きを受けるために
灰の中からよみがえる日です。
神よ、この者をお許しください。

9. Lux procul
(光の彼方へ)

↓光光光の彼方へ
光光きよらかな光やさしさ…
未来が輝いている光よ永遠に

10. Ad futurum movere
(未来に向かって)

↓光、光夢に向かって光、光未来に向かって聖なるかな未来聖なるかな夢
光よ永遠に、光よ永遠に希望を捨てないで欲しい夢をあきらめないで欲しい

歌詞: 上田益(4.7.9.10)、典礼文(1,2,3,5,6,8)

上田益の歌詞は、マリボンヌ岡本様によりラテン語訳されています。

復興つて?

お盆も過ぎた一日、久しぶりに石巻にいきました。姉夫婦のお墓参りをし川岸にあった自宅の方に行ってみようと歩きだしました。(昨年は通行止め)所が内海橋のあたりは石ノ森漫画館が残っているだけで2つあった橋も移動され新しくなりまったく面影がなくなっていました。まして姉夫婦の家なんてどこにあったか皆目見当がつきません。道は整備され橋も新しくなったけど記憶の中にあるものはすっかり消えていたのです。盛土の所にまだ工事用のブルドーザーが止まっていました…。

新しい橋の途中で会った青年にあのあたりに掛かっていた歩道橋しりませんか?と尋ねてしまいました。姪があそこまで避難しててと願った歩道橋です。でもそれは無理な質問でした。若い彼に分かるはずがないのです。

私の義兄は自宅でチリ地震津波を経験しました。その時は床下浸水だけで免れたから今度もと思ったのでしょうか…。

最近は温暖化のせいか異常気象が続き災害も相次ぎ”命を守る事を最優先にして早めの避難を”と呼ばれるようになりました。“あの時大丈夫だったから”はもうありえないのです。私たちは復興で(建物?)街の姿がすっかり変わってもあの未曾有の大災害や、教訓を与えてくれた人々に生かされていることを忘れてはいけないのです。記憶の共有の大切さを改めて実感させられた1日でした。

Y.M

あれから10年。

あの日 何時もと変わらない金曜日、趣味のサークルから帰宅して昼食も終わり、お茶を飲んでいました。その時一瞬で時間は止まった。スニーカーを履いて姉の部屋へ。要介護5の姉は布団の中で「私は大丈夫!」と力強い声で言った。とても救われた気持ちになった。空にはヘリコプターが行き交い。

夜になると東の空には石油コンビナート火災の火と黒煙が近くに見えた。「明日が来る」等とは思う余裕もなく数日が過ぎた。兄弟が住む岩沼、知り合いが居る荒浜、南三陸町、石巻の矢本ヘガソリンや照明用のバッテリー、食料等を持って駆けつけた。

顔を見て安心したがかなり疲れた様子だった。そんな時新聞でレクリエム・プロジェクトの事を知り入会した。介護の為合唱や歌う事から離れていた私だったので久しぶりに歌う混声合唱の響きに充実した想いでした。今、コロナという新しい災害

東北 仙台の人は二重の災害にも共存しなければいけない。辛さや悲しみの中でも喜びを、幸せを、日々見つけたいと思っています。

伏見郷子

レクリエムコンサートに参加させて頂きありがとうございます。プログラムの曲一つ一つにその背景を思い、練習を重ねるうちに、歌う度に、涙が出そうになつた事も度々。

本日は心を込めて歌わせて頂きたいと思います。

コーラ・カナリーノ 鎌田明美

忘れもしない東北を襲った災害3.11。南三陸は親戚の家も流されてゆきました。あれから10年以上経過しました。

地震、津波、豪雨、洪水、熱波に大規模な山火事、この夏も世界中で異常気象や自然災害が続きました。最近はコロナ禍で国内外すべてが被災地になったようです。

早くこの闇を通りぬけ、また日常という光を見るために、そして多くの惨禍にあわれた方々への鎮魂の想いに祈りを捧げます。上田益先生が2013年から仙台でレクリエム・プロジェクトを立ち上げられ、作曲された優しく慰め、励まして下さるたくさんの曲から、今回は寺島英弥さんの詩による作品「また逢える〜いのちの日々をかさねて〜」の初演など、工藤欣三郎先生ご指導のもと、今日は緊急事態宣言下ですが、合唱団員心をこめてこのプログラム全曲、声を合わせて歌わせていただきます。

柳沼敏子

レクイエム・プロジェクトとは

作曲家・上田 益(うえだ すすむ)が主宰する「レクイエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域をつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まりました。これまで全国10箇所で活動し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦災で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(プラハ、ウィーン、バチカン、イタリア、ポーランド)も行っています。

<https://www.requiem-project.com>



レクイエム・プロジェクト東京2015
～戦後70年、追悼と希望、そして平和への思いを未来へ～
(ティアラこうとう 大ホール)



現在までのプロジェクト実施地域、関連活動地域

神戸(2008年2月～現在)

レクイエム・プロジェクト発足の地。阪神・淡路大震災犠牲者の追悼をきっかけに2008年2月から準備活動が始まり、7月から合唱団の練習を開始。現在、活動14年目。2016年までは毎年震災の日である1月17日にコンサートを実施。2017年より、他地域の団員が参加しやすい日程で開催。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、活動の中心的存在。毎年コンサートを開催。



兵庫県佐用町(2010年11月～現在)

2009年に発生した水害犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。現在活動11年目。各活動地域の中で混声合唱団から唯一の女声合唱団に昨年変更。数年に1回コンサートを開催するほか、積極的に合唱団としての定期演奏会を行う。

長崎(2012年9月～現在)

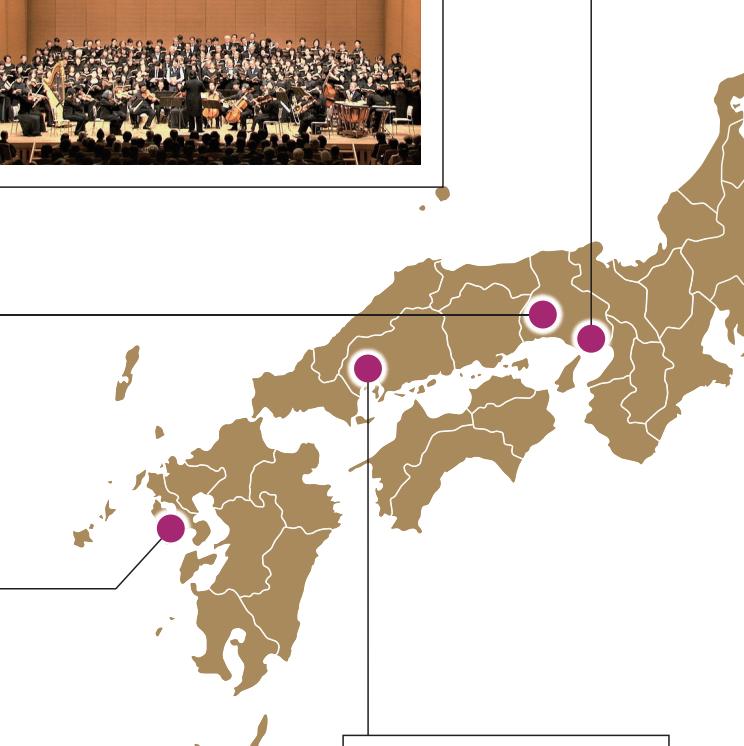
原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。趣旨に賛同し、公募により集まった合唱団員数は全国でも有数。2015年のコンサートは長崎市被爆70周年記念事業に、2020年のコンサートは同75年記念事業に採択。浦上天主堂で追悼コンサートを開催。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを実施。

沖縄(2010年4月～2015年6月)

沖縄戦の犠牲者追悼をきっかけに那覇で活動を開始。2015年の沖縄戦終結70年の追悼コンサートをもって5年間の活動を終了。

広島(2013年2月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。さらに2014年に発生した大規模土砂災害犠牲者の追悼も加わる。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを開催。





<海外での活動>

- プラハ(チェコ): 2012年4月1日、東日本大震災チャリティーコンサートをドヴォルザーク・ホールでプラハ・フィルと開催。日本から神戸・東京の声楽ソリスト5人と合唱団有志17人が参加。在チェコ日本大使館後援。
- ウィーン(オーストリア): 2014年10月11日、聖シュテファン大聖堂主催公式コンサート開催。東日本大震災から3年を迎え、その追悼の思いを込め、神戸・東京の声楽ソリスト(指導者)8人、仙台、南相馬、東京、神戸、広島、長崎から参加したプロジェクト合唱団有志、そして仙台フィルメンバー4人を含む総勢158人と現地のプロ・オーケストラにより演奏。
- 復興祈念と平和への祈りを込め、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、「バチカン・イタリア特別公演」を2016年9月に実施。サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏、システィーナ礼拝堂での献唱(以上バチカン)、聖フランチェスコ聖堂(アッシジ)、サンタ・トリニータ教会(フィレンツェ)での演奏会を行う。声楽ソリスト4人と各地のプロジェクト合唱団有志、総勢106人により演奏。聖フランチェスコ聖堂で初演した。プロジェクト主宰者・上田益作曲「ミサ・ブレヴィス～平安への祈り」は、初演に先立ち教皇フランシスコに献呈する栄誉をバチカン教皇庁から与えられた。
- 「レクイエム・プロジェクトinポーランド～平和への祈り～」を、クラコフ市特別名誉賛助後援、在ポーランド日本大使館後援のもと、2019年10月に実施。滅多に演奏の機会を持てないシフィドニツァ・平和教会でのオルガンとのコンサート、クラコフ聖マリア教会での献唱、聖カタリーナ教会でのクラコフ・フィルハーモニー管弦楽団との共演、ワルシャワでは聖十字架教会ミサでの演奏や、ワルシャワ大学日本学科設立100周年記念行事の一環としてコンサートを実施。

